

## 戸澤康壽 名誉教授 追悼



故 戸澤康壽先生 略歴

1923 年（大正 12 年）12 月 3 日 生

|            |                   |            |                          |
|------------|-------------------|------------|--------------------------|
| 1946 年 9 月 | 東京工業大学<br>機械工学科卒業 | 1987 年 3 月 | 名古屋大学定年退官<br>名古屋大学名誉教授   |
| 1947 年 6 月 | 東京工業大学助手          | 1987 年 4 月 | 大同工業大学教授                 |
| 1951 年 3 月 | 千葉大学講師            | 1993 年 4 月 | 大同工業大学学長                 |
| 1952 年 4 月 | 千葉大学助教授           | 1996 年 3 月 | 退任、大同工業大学<br>(大同大学) 名誉教授 |
| 1962 年 3 月 | 工学博士              | 2001 年 4 月 | 勲三等旭日中授章                 |
| 1964 年 3 月 | 千葉大学教授            |            |                          |
| 1964 年 4 月 | 名古屋大学教授           |            |                          |

名古屋大学名誉教授 戸澤康壽先生は、2021年2月15日（月）にご逝去されました（満97歳）。ご逝去の報に接し、哀惜の念に耐えられません。心よりお悔やみ申し上げます。

戸澤康壽先生は、1923年12月にお生まれになり、1946年9月東京工業大学機械工学科を卒業され、東京工業大学助手を経て、1951年3月に千葉大学講師に任ぜられ、1952年4月同大学助教授、1964年3月教授に昇任、そして1964年4月には名古屋大学工学部に新設された鉄鋼工学科へ教授として赴任されました、1982年3月同大学を定年退官され、同時に名古屋大学名誉教授の称号を受けられました。同年4月から大同工業大学教授に採用され、1993年4月同大学学長に選任されました。1996年3月まで大学運営にあたられ、1996年同大学名誉教授の称号を受けられました。

この間先生は一貫して塑性加工の研究にたずさわってこられました。研究対象は多岐にわたりますが、なかでも薄板成形、特に曲げ精度と曲げ破壊、板圧延、特にその三次元的取扱い、冷間鍛造、特に鍛造用材料の評価、さらに被加工材料の多軸応力下における変形挙動など、の先駆的研究において優れた成果を挙げられ、それぞれの分

野における学問と技術の発展に多大の寄与をされました。これらの業績に対し、日本塑性加工学会会田プレス技術賞のほか、論文賞は4たびにわたり受賞しておられます。また日本機械学会、精機学会、軽金属学会それぞれからの贈賞も受けておられます。

先生には、また、優れた教育者として、学部および大学院の学生、あるいは企業の技術者などの教育指導に熱意を傾注され、第一線の研究者・技術者を多数育成されました。また、名古屋大学評議員、大同工業大学（大同大学）学長を務められ、研究教育の場における管理運営のあり方に一つの範を示されました。

日本塑性加工学会会長、軽金属学会副会長、理事、部会長、委員長、CIRP（国際生産工学アカデミー）および ICFG（国際冷間鍛造グループ）の日本委員など数多くの役職を歴任され、1989 年日本塑性加工学会名誉会員に推挙されております。これらの功績に対して 2001 年に勲三等旭日中授章を受章されました。

先生は、スポーツや趣味も多才で、水泳、水球、柔道、馬術、スキー、社交ダンス等もかなりの腕前であったと聞いています。ゴルフではホールインワン（84歳）、エイジシュート（88歳）を達成するなど人並みはずれたスポーツマンでした。退職後は奥様と二人でクルーズ船での船旅を楽しみ世界の海に出かけておられました。

最後に、日本の工業技術の発展に大きな足跡を残されました先達を失いましたことは、各界にとりまして大きな損失であります。ここに哀悼の意を表すとともに慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

2021 年 3 月 3 日

1973 年鉄鋼工学科卒 石川 孝司

## 共晶会だより

### 令和2年度共晶会幹事

会 長 : 金武 直幸 (学外)  
副会長 : 吉田 勤 (学外)、浅野 秀文  
庶 務 : 高田 尚記、足立 吉隆  
会 計 : 小川 登志男  
広 報 : 本山 宗主  
名 簿 : 羽尻 哲也  
企業連携 : 足立 吉隆、市野 良一、尾村 直紀 (学外)  
会計監査 : 村田 純教 (学外)  
工学部同窓会 : 高田 尚記  
事務局 : 堀田 依里

### 令和2年度事業報告

#### 1. 総会関係 :

- 1) 理事会・総会 : 2020 年 6 月 13 日 (土)  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- 2) 講演会 (第 3 回 未来創造講演会) : 2020 年 6 月 13 日 (土)  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

#### 2. 懇親会 : 2020 年 6 月 13 日 (土)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

#### 3. 理事会・幹事会関係 :

理事会 : 1 回 (R02.7.3 (書面審議))  
幹事会 : 3 回 (R02.9.7(web), R02.12.15(web), R03.6.2(web))

#### 4. 会員サービス :

「共晶 3 4 号」(元廣友美先生 定年記念特集号) の発行

## 関東支部報告

### 令和2年度共晶会関東支部活動報告

令和2年度共晶会関東支部総会（2020年11月15日（日曜日）11:00～14:30）は、新型コロナウイルス禍のために、初めてのオンライン開催となりました。今夏の幹事会からオンラインで打合せを行ない、事務局の黒岩和典氏の多大な尽力のお陰でオンライン開催に漕ぎ着けることができました。

恒例の名古屋大学からの講師招聘は、稗田純子准教授にオンラインで参加していただきました。稗田先生は、関東支部総会初の平成年代の卒業で、かつ初の女性講師となりました。稗田先生には期待に違わぬフレッシュな講演をしていただき、参加者は稗田先生を含む16名が（いつもの学士会館（東京・神保町）・・・ではなく）WEB上で楽しいひとときを過ごしました。

稗田先生は2004年（H16）に工学部物理工学科材料工学コースを卒業され、2009年に大学院工学研究科マテリアル理工学専攻博士課程後期課程を修了され、博士（工学）を取得されました。その間、高井治先生や齋藤永宏先生の薫陶を受けられたとのこと。その後は名古屋大学の他、東北大学金属材料研究所や東京工業大学大学院理工学研究科でもご活躍になり、2016年4月に名古屋大学工学部マテリアル工学科および大学院工学研究科化学システム工学専攻准教授に着任されて、現在齋藤・稗田・神本・上野研究室の一翼を担っておられます。

総会では、稗田先生の多岐に亘る知見を基に、興味深い講演をしていただきました。講演の前半は、毎年恒例となっている名古屋大学工学部の金属系学科（既にこれも死語かもしれませんが）の現状についてご紹介いただきました。母校を離れて長年が経ち、学会活動やリクルート活動などからも遠ざかっている身としては、この情報は現状を知る貴重な機会です。今は材料工学科と化学工学科が統合してマテリアル工学科になり、今年初めてマテリアル工学科で入学した学生が4年生として研究室に配属されたそうです。今や「金属工学科」や「鉄鋼工学科」は跡形もなく、どのような変遷を経てマテリアル工学科になったのかと思うと隔世の感があります。学科名だけではなく、講座の内容でも鉄の研究をしている講座は数える程で寂しい思いもありますが、これも時代の流れでしょうか。

講演の中で、今年のコロナ渦での授業等への対応が紹介されました。春学期はオンライン、秋学期からは対面＋オンライン授業、学科の会議もZoomでのオンライン会議になっているそうです。マスコミでも報道されていますが、当事者の先生からお話を伺うとご苦労がよく分かります。学生の方もとんだ災難で、「2年生はオンラインでも良い（通学時間が不要）」と言うけど、1年生は早く大学に来たがっている」という話が印象的でした。学生にとって大学の機能は、単に授業を受けるための機関ではなく、人間形成の場であることを改めて思います。これから暫くは感染拡大防止との兼ね合いで難しい舵取りになりそうですが、何とか乗り切って欲しいと思います。

その他の話題として、マテリアル工学科新同窓会が発足し、現4年生たちが新名称を検討中とのことですので、共晶会関東支部としてもその動向を注視していきたいと思います。

講演の後半では、稗田先生の豊富な研究業績が紹介されました。その研究業績は多岐に亘り、(1)プラズマプロセスによる生体用Ti合金の開発、(2)プラズマプロセスによる生体用アモルファス炭素膜の開発、(3)液中プラズマによる高分子重合、(4)難氷雪接着表面の開発、についてご説明いただきました。浅学の身には十分な理解ができたか心許ないのですが、稗田先生の研究に対する熱意はひしひしと伝わって来ました。

ここでは紙面の都合上その全貌はとても記述できませんが、その一端をご紹介します。例えば、生体用材料（事故や疾病等により欠損した身体機能を代替したり治療に使用したりするために医療用に使用される材料）としてのTi合金の開発では、①無毒性・非アレルギー性（人体に対して無害）、②生体組織適合性（人体を構成する組織となじみが良い）、③高力学的特性（長年体内に埋め込んでも安心）、④耐食性（長年体内に埋め込んでも安全）が求められる高度な材料です（長年、鉄の大量生産に携わって来た身には想像を絶する世界です）。そのような高機能材料を、プラズマプロセスを用いてTi-Mg合金等で作成する過程を説明していただきました。

講演の後も、参加者からの質疑応答や更には先輩からのサジェスションもあり、有意義な時間になったと思います。

稗田先生の講演の後は歓談に移り、各自が手元に用意した食事を取りながら、参加者の近況報告などが行なわれました。WEB上での近況報告ということで、いつもとちょっと勝手は違いましたが、ちょうど所定の時間内に皆さんの近況を伺うことができました。参加者の中には会社をリタイアして第2の人生に踏み出されている方も多く、そろそろリーチが掛かっている者として参考になることも多々ありました。

稗田先生の東京工業大学時代の恩師である大竹先生も参加していただき、稗田先生とは久しぶりの再会だったようで、また稗田先生が東工大で活躍されていたときの様子も紹介していただいて会が盛り上がりました。

今回はH14年Mの方が最若手で参加してくれましたが、まだまだ現役世代の方々の参加が少ないのが実情です。この小文を目にされた関東地区（に限らずどなたでも歓迎です）在住の方は、関東支部総会への参加を是非ご検討ください。例年の案内が届いていない方は、下記事務局までご連絡ください。

次回（来年）の総会は、コロナの状況が見通せず未定です。例年ですと11月の第3日曜日に開催していますが、①リアル開催、②オンライン開催、③（技術的に可能であれば）ハイブリッド開催、のどれにするか、今後幹事会で検討していきます。何かご要望がありましたら、下記事務局までお知らせください。

また、こうすれば参加できる（時間帯・場所・会費等何でも）というようなご意見がありましたら、同様に下記事務局にお寄せください。次回すぐに反映させるのは難しいかもしれませんが、できるだけの対応を幹事会で検討していきたいと思います。

最後に、参加者の方々、また開催に協力いただいた共晶会本部の方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

（共晶会関東支部長 井上 茂（S56/58M 坂尾研））

<事務局連絡先>

黒岩和典（S52 戸澤研） [kuroiwa779618@gmail.com](mailto:kuroiwa779618@gmail.com)

以上

## 関西支部報告

### 令和 2 年度 共晶会関西支部活動報告

関西支部の総会・懇親会の開催について、新型コロナウイルスが鎮静化していない状況を鑑みて本年度（2020 年度）も中止とさせて頂くこととしました。2 年連続で中止となり、非常に残念ではありますが、安心して開催できる時点で開催とさせて頂きます。

現時点では次回開催は 1 年後の 2022 年 3 月 12 日（土）を予定しています。

日程が決定次第、改めてご連絡をさせて頂きます。

一刻も早い収束と皆様のご健康を祈念申し上げます。

また、今後とも皆様の温かいご支援のほどよろしくお願い致します。

#### 【2022 年 1 月追記】

2021 年度の共晶会関西支部、総会及び懇親会を例年であれば 2022 年 3 月に開催する予定でございますが、変異株等によりコロナ禍が完全に鎮静化していない状況を鑑み、本年度についても開催を中止させていただくことといたしました。

安心して開催できる状況になりましたら、改めてご案内させていただきます。

何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

一刻も早い終息と皆様のご健康を祈念申し上げます。

今後との共晶会活動へのご支援の程よろしくお願い致します。

# ジョイントシンポジウム

## 未来を加速する革新的加工技術 開催報告

金属や機械の分野では、“加工”は材料の変形や塑性加工を意味する場合が多いが、本来、加工の意味するところは、“手を加える”という点にある。例えば“食品の加工”や“画像の加工”といった場合、明らかに塑性変形は意味していない。つまり加工技術とは、広く手を加える技術であり、新時代のものづくりでは、種々の分野において、近年この、“手を加える技術（加工技術）”の進展が著しい。

今回、周辺の関連技術も含め、先進的な加工技術およびその将来展望を念頭に、分野の枠を超え新たな融合を模索する未来志向のシンポジウムを、「資料1」のように企画させていただいた（共晶会からは、共催事業として、毎年、当該シンポジウムにご支援をいただいております）。積層造形(3Dプリンター)、MI（マテリアルズインフォーマティクス）、および革新的加工シミュレーションの新たな連携を通じ、未来を先取りするビジョンを共有することを目的とした。またこの実現のために、岐阜大学：地域連携スマート金型技術研究センター、名古屋大学：未来社会創造機構マテリアルイノベーション研究所、情報学研究科附属価値創造研究センター、および工学研究科附属材料バックキャストテクノロジー研究センターからなる横断型のジョイントシンポジウム形式とさせていただいた。当日の講演内容は以下のようにまとめられる。

まず名古屋大学の小橋教授が、ポーラス材料の特徴と可能性、さらに3Dプリンタによるラティス金属の新展開について解説し、最先端の積層造形分野を非常にわかりやすく紹介された。続いて、岐阜大学の新川准教授から、岐阜大学における地域連携スマート金型技術研究センターの発展史、ならびに近年における積層造形の金型開発への適用例について話題提供をいただいた。金型設計がまさに新ステージに入ったことを印象付ける内容であった。次に岐阜大学の吉田准教授が、塑性加工プロセスシミュレーションと機械学習との融合を例に、プロセスインフォーマティクスの最前線について解説された。また名古屋大学の湯川准教授は、熱間加工プロセスを題材に、材料工学と機械工学の統合型シミュレーションシステムを説明するとともに、逆問題のよるシステム最適化について言及された。最後に名古屋大学の足立教授が、最新の数学、コンピュータビジョン、および機械学習を有機的に結び付け、材料の内部組織を徹底的に定量化することにより、次世代の鉄鋼材料学がどのように変革するかについて紹介された。積層造形技術、プロセスシミュレーション、機械学習、マテリアルズインフォーマティクス、およびプロセスインフォーマティクスの新たな連携を通じ、

これからのブレイクスルーに結びつくノウハウ・ヒントが随所にちりばめられており、まさに未来を加速する革新的加工技術にふさわしいシンポジウムとなった。

さて2020年4月より、岐阜大学と名古屋大学は、東海国立大学機構として、新たなる飛躍への挑戦を開始している。この活動の一環の意味もあり今回は特別に、講演者を全て東海国立大学機構の所属教員とさせていただいた。さらに今回、コロナ禍ということもあり、当該シンポジウムとしては、初のオンライン開催とした。事前参加申込数は76名、当日のオンライン接続最大数は70名[講師も含む]と、盛況の内に終えることができた。特に共晶会関連の皆様のご参加は多く、あらためてご協力いただいた方々に心よりお礼申し上げる次第である。

(文責：小山)

岐阜大学 研究推進・社会連携機構 地域連携スマート金型技術研究センター  
名古屋大学 未来社会創造機構 マテリアルイノベーション研究所,  
情報学研究科附属価値創造研究センター,  
工学研究科附属材料バックキャストテクノロジー研究センター

## ジョイントシンポジウム 未来を加速する革新的加工技術

主催：岐阜大学 研究推進・社会連携機構 地域連携スマート金型技術研究センター、  
名古屋大学 未来社会創造機構 マテリアルイノベーション研究所、情報学研究科附属価値創造研究センター、工学研究科附属材料バックキャストテクノロジー研究センター

共催：名古屋大学 共晶会（材料教室、旧金属・鉄鋼教室同窓会）

協賛：日本工学アカデミー中部支部、日本金属学会・日本鉄鋼協会東海支部

日時：2021年3月30日（火） 13:10～17:00

Web開催：zoomによるオンライン会議形式

参加費： 無料

### シンポジウムプログラム(以下、敬称略)：

13:10 開会の挨拶

13:15～13:55 3Dプリンタが創る新しい形  
～ラティス金属の特徴と展開～  
名古屋大学 教授 小橋 眞

13:55～14:35 金型製造技術としての金属AM法の特徴  
岐阜大学 准教授 新川真人

14:35～14:50 休憩

14:50～15:30 塑性加工プロセスシミュレーションの知能化への  
取り組み  
岐阜大学 准教授 吉田佳典

15:30～16:10 特性最適化を目指す熱間加工プロセスモデリング技術  
名古屋大学 准教授 湯川伸樹

16:10～16:50 最新数学、コンピュータビジョン、機械学習を  
取り入れた鉄鋼材料学  
名古屋大学 教授 足立吉隆

16:50～17:00 閉会の挨拶

## 共晶会「八田基金」からの報告

### 1. 2020年度の研究・教育環境の整備

#### 1-1 共通研究用機器の購入

##### ① レーザー顕微鏡 一式

型式：OPTELCICS HYBRI+C3

メーカー：レーザーテック社製

価格：14,520,000円



##### ② 旧材料系サーバー

型式：カスタマイズPCサーバー、

メーカー：ジャパンマテリアル社製

価格：652,300円

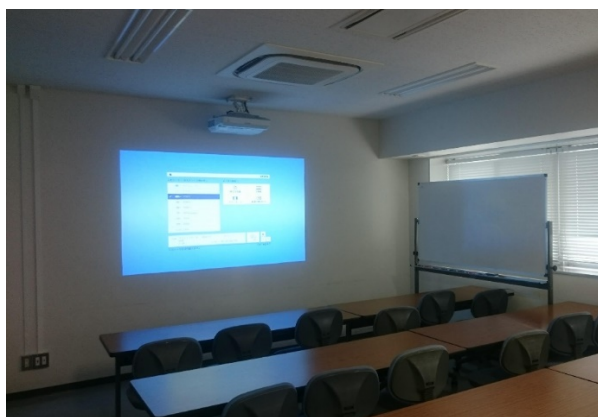


③ 輪講室 329 室、333 室（天吊プロジェクタ、椅子）

天吊プロジェクタ

型式：EB-696UT、メーカー：エプソン社製

価格：1,007,270円（2部屋分）



椅子

型式：ボニートチェアセレクト KT140PGM-T1T1

メーカー：イトーキ社製

価格：1,140,000円（2部屋分）



## 1-2. 学生へのポケット Wi-Fi 支援

2020 年度はコロナ感染症対応に関する緊急事態宣言下の中、学生にとっても、平常時でない中、戸惑いと不安の中、現在も生活を送っています。

前期の講義もオンラインで始まり下宿学生の中には Wi-Fi 環境がない学生に対し大学の教室を開放してリモート講義を受けてもらうことを想定しています。

他の学生との接触を減らし、感染リスクが減るように自宅で遠隔講義を受けられるようにしてあげたいという思いでマテリアル工学科と共同でポケット Wi-Fi 支援を致しました。

八田基金より共晶会学生対象としポケット Wi-Fi5 台を援助しました。



## 2. 研究助成

### 2-1 博士課程研究助成

助成金額：40万円

|                          |
|--------------------------|
| 2020年度 共晶会八田基金研究助成 受賞者一覧 |
|--------------------------|

#### ①2020年4月博士課程入学者 1名



所属：材料デザイン工学専攻

氏名：強 博文

研究課題名： $\beta$ -Mn 構造複金属窒化物薄膜の  
トポロジカル物性及びデバイス応用

#### ②2020年10月博士課程入学者 1名



所属：物質プロセス工学専攻

氏名：朱 天齊

研究課題名：フェライト系ステンレス鋼から作製した  
bcc 固溶体マイクロ単結晶の変形機構に  
関する研究

### 2-2 学生によるベンチャー企業スタートアップ助成

受給者：高石 将輝

会社名：アイクリスタル株式会社

起業設立に関連した研究概要：

機械学習を活用したシミュレーションの高速・高精度化及び

それを活用した最適化

### 3. 助成金受給者からの謝意

#### 3-1 2019 年度助成金受給者の声

八田基金を受給して

この度、博士課程学生研究助成金をいただき、誠にありがとうございます。今年はコロナウイルスの関係で、登校できない場合が多くなっております。研究助成金を利用し、ノートパソコンを購入させていただくことより、自宅で研究を行うことが順調にできるようになりました。また、来年の学会などの際にも、ノートパソコンが活躍できると考えております。大変な時期ですので、大変助かりました。ご支援に報いることができるよう、さらなる成長を目指し努めてまいります。重ねて御礼申し上げます。

(物質プロセス工学専攻 劉 牧霖)

この度は、博士課程学生研究助成金を支給いただき、深く感謝申し上げます。ご支援もありまして、複数の学術会議や研究会へ参加することができました。そこで行った研究者との交流によって、自身の知識を広げることができました。また、国内外の学術会議で発表するなど、素晴らしい機会をいただけたことに深く感謝申し上げます。社会に貢献するような研究となるように、今後より一層尽力して参りたいと考えております。

(物質科学専攻 齋藤達志)

#### 3-2 2018 年度助成金受給者の声

八田基金の研究助成を支給頂き、誠にありがとうございます。八田基金のおかげで、今年私の研究成果を国際ジャーナルに投稿することになりました。

論文の掲載料に補助金の支援を受けました。価値あるところに助成金を使うようになって嬉しいです。

このような素晴らしい機会を頂けたことに深く感謝を申し上げ、卒業後にもより一層研究に打ち込み社会に貢献できる研究者になるように成長に努めます。

(化学システム工学専攻 PARK Jae-Hyeok)

以上

2020 年度（令和 2 年度） 名古屋大学共晶会  
理事名簿（敬称略）

| 卒業年 | 氏名    |
|-----|-------|
| 38  | 神戸繁明  |
| 39  | 坂 公恭  |
| 40  | 早川駿吉郎 |
| 41  | 伊藤洋平  |
| 42  | 桑原 守  |
| 43  | 恒川好樹  |
| 44  | 土井 稔  |
| 45  | 石野義弘  |
| 46  | 服部恵一  |
| 47  | 横井正良  |
| 48  | 中野 純司 |
| 49  | 浅野弘明  |
| 50  | 井村 亮  |
| 51  | 樽谷芳男  |
| 52  | 近藤哲典  |
| 53  | 青木 繁  |
| 54  | 浅野秀文  |
| 55  | 高木 誠  |
| 56  | 牧野 浩  |

| 卒業年 | 氏名    |
|-----|-------|
| 57  | 内海裕一  |
| 58  | 生田浩之  |
| 59  | 酒井 朗  |
| 60  | 北村哲弥  |
| 61  | 華井智加朗 |
| 62  | 松本章宏  |
| 63  | 清水茂代司 |
| H元  | 尾崎昌保  |
| H2  | 庄村光広  |
| H3  | 毛利 猛  |
| H4  | 山田朋広  |
| H5  | 山田保誠  |
| H6  | 森 淳志  |
| H7  | 千野靖正  |
| H8  | 吉田佳典  |
| H9  | 尾村直紀  |
| H10 | 山内貴司  |
| H11 | 小泉 淳  |
| H12 | 尾関宏紀  |

| 卒業年 | 氏名    |
|-----|-------|
| H13 | 加藤勝也  |
| H14 | 久米裕二  |
| H15 | 新里喜文  |
| H16 | 稗田純子  |
| H17 | 浜口友彰  |
| H18 | 西垣 拓  |
| H19 | 加藤史也  |
| H20 | 岩下和尋  |
| H21 | 鈴木久雄  |
| H22 | 雨森則人  |
| H23 | 白木達人  |
| H24 | 田代裕樹  |
| H25 | 木村 航  |
| H26 | 中川慶彦  |
| H27 | 山本功樹  |
| H28 | 石黒雄也  |
| H29 | 渥美公基  |
| H30 | 山田英史  |
| R元  | 星野 聖奈 |

|    |      |
|----|------|
| 関東 | 井上 茂 |
|    | 黒岩和典 |
| 関西 | 植木俊行 |
|    | 酒井英典 |

任期は1年とする

# 名古屋大学共晶会会則（令和２年７月３日改正）

## 第一章 総 則

- 第１条 本会は「名古屋大学共晶会」と称する。
- 第２条 本会は会員相互の親睦を図り文化の向上発展に資することを目的とする。
- 第３条 本会は本部事務所を名古屋大学工学部マテリアル工学科教室内に設置する。
- 第４条 本会には関東支部並びに関西支部を設置する。

## 第二章 会 員

- 第５条 本会は次の会員を以って組織する。
- １）名古屋大学工学部金属学科並びに鉄鋼工学科卒業生および名古屋大学大学院工学研究科金属並びに鉄鋼工学専攻課程修了者
  - ２）名古屋大学工学部材料機能工学科並びに材料プロセス工学科並びに名古屋大学工学部物理工学科材料工学コース卒業生および名古屋大学大学院工学研究科材料機能工学並びに材料プロセス工学専攻課程修了者
  - ３）名古屋大学工学部物理工学科材料工学コース在学生のうち、卒業研究のための講座配属をされた者
  - ４）名古屋大学大学院工学研究科マテリアル理工学専攻材料工学分野課程修了者
  - ５）名古屋大学工学部金属工学教室並びに鉄鋼工学教室および材料機能工学、材料プロセス工学教室、マテリアル理工学専攻材料工学分野並びに関連専攻関連講座の教職員、旧教職員および会長の推薦した者
- 第６条 会員に関するその他の事項は理事会により決定する。

## 第三章 事 業

- 第７条 本会の目的を達するため次の事業を行う。
- １）本会名簿および会報の発行
  - ２）諸集会の開催
  - ３）本会の目的達成上必要と認めた事項

## 第四章 役 員

- 第８条 本会には次の役員を置く。
- 会長 １名、副会長 若干名、理事 若干名、幹事 若干名、会計監事 １名、支部長 各１名（関東支部並びに関西支部）
- 第９条 会長、副会長および理事は幹事会の推挙に基づき理事会にて承認する。幹事並びに会計監事は会員から会長が委嘱する。支部長は各支部の推挙に基づき理事会にて承認する。
- 第１０条 会長は会を代表しその会務を総括し、案件によって理事会を招集する。副会長

は会長を補佐する。理事は学年を代表し理事会に提出された案件を審議する。  
幹事は本会の事業の運営、執行に当たり、必要な案件を理事会に図る。

第11条 役員の任期は2ヶ年とし重任を妨げない。

## 第五章 総 会

第12条 総会及び理事会は年1回の定期開催とするが、会員の5分の1以上の要請によるか、あるいは会長の要請により臨時総会を招集することが出来る。審議事項の議決は、総会出席者の過半数の賛成を必要とする。

## 第六章 会 計

第13条 本会の会計年度は毎年6月1日に始まり翌年5月末日に終わる。

第14条 本会の会計は入会金、会費、寄付およびその他の収入を以って支弁する。

第15条 会員は入会時に入会金を納入する。

第16条 会員は毎年の会費を納入する。

第17条 本会の会計は総会で承認を得る。

## 第七章 会 則 変 更

第18条 本会会則の変更は、総会出席者の過半数の賛成を必要とする。

## 第八章 附 則

第19条 本会則の執行に必要な細則を幹事会において設けることができる。

昭和33年10月18日 改正

昭和38年10月20日 改正

昭和41年4月6日 改正

昭和49年6月29日 改正

昭和53年7月8日 改正

昭和56年7月4日 改正

平成2年7月7日 改正

平成10年7月25日 改正

平成15年7月12日 改正

平成16年7月17日 改正

平成28年6月18日 改正

平成29年6月24日 改正

令和2年7月3日 改正

## 広 告

|                 |    |
|-----------------|----|
| 株式会社東郷製作所 ..... | 48 |
| オザワ科学株式会社 ..... | 48 |

# 未来を創る力

力を動きに、動きを力へと変える「ばね」  
“鋭く” “大胆に” “細やかに” 「ばね」は、その動きの中に無限の可能性を秘めています。  
わたしたち『ばねの東郷』は「ばね」のうちに秘められた力を信じ  
常に時代の一步先を見つめた製品で、豊かな社会を築きます。



**ばねの東郷**  
株式会社 東郷製作所

本社工場  
〒470-0162 愛知県愛知郡東郷町大字春木字蛭池1番地  
TEL 0561-38-1111 (代表) FAX 0561-38-5335  
<http://www.togoh.co.jp>

人と自然のハーモニー。  
卓越した技術が築く地球の未来。  
CONTRIBUTION TO FUTURE SOCIETY

Life Science

Nano Technology

Electronics

Bio Technology

New Materials

Ecology

Energy Technology

科学機器・計測システムの技術・情報商社  
**オサワ科学株式会社**  
OZAWA



<http://www.ozawasc.co.jp>